

<第112回 日本小児科学会学術集会 総合シンポジウム「子どもと喫煙」6>

【寄稿】

第112回日本小児科学会学術集会 シンポジウム「子どもと禁煙」

座長まとめ

近藤直実¹⁾

要 旨

先生方のご講演を拝聴しながら、大変重要なおもいが小生の中に湧き上がってきました。それは、「タバコを吸ってはいけない」という指導ではなく、「タバコを止めるとこんなにいいことがあるよ」と指導することだということです。それは本人にとっても「こんなにいいことがあるよ」ということと共にむしろそれ以上に「あなたのお子さまにとってこんなにいいことがあるよ」ということを、さらには「まわりのお子さん皆に、そしてまわりの人々皆にとってこんなにいいことがあるよ」ということです。小生にとってとてつもない発想の転換でした。

そしてそれは多くの喫煙者に禁煙への極めて重要なきっかけの言葉であり決定的な言葉になると確信を持った次第です。多くの禁煙したくても禁煙できない人々にとっても、禁煙を真剣に考えた事のない人々にとっても極めて重要な言葉であると思いました。

キーワード：禁煙問題、テーラーメイド医療、テーラーメイドの予知予防、環境因子と遺伝子

本シンポジウム「子どもと喫煙」を大変御高名で禁煙問題にリーダーシップを発揮して極めて精力的に取り組んでおられます奈良女子大学 高橋裕子先生と共に座長を務めさせていただきましたことを大変幸運なことと思っております。

本シンポジウムではまず序論として奈良女子大学 高橋裕子先生から「子どもの喫煙の現状と子どもへの禁煙治療」を拝聴し、引き続いて野田先生から「保護者への禁煙支援」、小田嶋先生から「喘息と受動喫煙」、加治先生から「妊婦の受動喫煙と胎児子どもへの影響」、北山先生から「子どもへの喫煙防止教育」、中川弁護士から「子どもの喫煙をめぐる法的問題」を伺いました。各先生方が大変熱心に禁煙問題に取り組んでおられます様子が手に取るようでありました。先生方の熱意に改めて敬意を表させていただきます。先生方のご講演を拝聴しながら、大変重要なおもいが小生の中に湧き上がってきました。

それは、「タバコを吸ってはいけない」という指導ではなく、「タバコを止めるとこんなにいいことがあるよ」と指導することだということです。それは本人にとっても「こんなにいいことがあるよ」ということと共にむしろそれ以上に「あなたのお子さまにとってこんなにいいことがあるよ」ということを、さらには「まわりのお子さん皆に、そしてまわりの人々皆にとってこんなにいいことがあるよ」ということです。小生にとってとてつもない発想の転換でした。そしてそれは多くの喫煙者に禁煙への極めて重要なきっかけの言葉であり決定的な言葉になると確信を持った次第です。多くの禁煙したくても禁煙できない人々にとっても、禁煙を真剣に考えた事のない人々にとっても極めて重要な言葉であると思いました。

近年、テーラーメイド医療、個別化の医療がさげばれかけております。実際に私共も喘息やアレルギーについ

1) 岐阜大学大学院医学系研究科 小児病態学 教授

責任者連絡先：近藤直実
岐阜県岐阜市柳戸1-1 (〒501-1194)
岐阜大学

てそれらの病態の多様性がゆえに、各病態にあわせて個別化の医療、すなわちテーラーメイド医療が必要と考え、喘息・アレルギーのテーラーメイド医療のためのガイドラインを厚労省研究班において作成致しました。さらに次のステップとして、テーラーメイドの予知予防が必要と考え、その目的の研究を開始しております。これらの研究をすすめる中で例えばある遺伝子型（多くの人が持っている）を持っている人は特に受動喫煙に対してより喘息になりやすいような遺伝子型がいくつも見出されているとの報告が散見されました。受動喫煙はどんな人に対しても極めて重大な害を及ぼすことは明らかですが、これらの報告を含め、喘息発症における環境因子と遺伝子との関連に関する報告を、自検例を含めて整理すると図1のようになります。これは、あくまで喘息発症に関してですが、生体に発生する種々の疾患が遺伝子と環境因子との関わり、しかも直接的な関わりにより発現してくる事の解明がすすめられています。これは、極めて画期的なことでもあります。

図1 遺伝子多型変異と遺伝因子環境因子との関連
(環境因子対策指導プロトコル)

IL-12B	C3757T	感作	喘息
IL-4R α	Val50Ile	感作	アトピー
IL-13	Arg110Gln	RSV感染誘導	喘息 運動誘発喘息
TGF β 1	T-509C	受動喫煙	排気ガス リモデリング
IFN- γ R1	Leu467Pro	喘息	RSV感染誘導喘息
LTC4	A-444C	喘息	LTRA治療反応性
IL-18	C-133G	アトピー性	皮膚炎
CD14	T-159C	感染	エンドトキシン ペット 受動喫煙
ADR β 2	Arg16Gly		受動喫煙
TLR1	T-2192C, A743G	CDS	Th1(感染)
TLR6	T-2078A, C745T	CDS	Th1(感染)
TLR10	A2323G	CDSCDS	Th1(感染)

最後にこのようなすばらしいシンポジウムの企画を立案され、かつ奈良女子大学 高橋裕子先生と小生にその座長を与えて下さいました第112回日本小児科学会学会術集会会頭の奈良県立医科大学 吉岡章学長に深甚なる感謝の意と心からの敬意を表させていただきます。

◇シンポジウムの概要

第112回日本小児科学会学会術集会 (会頭：吉岡 章 奈良県立医科大学)

～メインテーマ：歴史に学び未来をひらく小児医療～

2009年4月17日(金) - 19日(日) 奈良県文化会館・奈良県新公会堂他にて開催

URL : <http://www.congre.co.jp/jps112/index.html>

総合シンポジウム2 「子どもと喫煙」 (4月17日14:00-16:00)

座長：近藤 直実 (岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学)

高橋 裕子 (奈良女子大学保健管理センター)

演者：小田嶋 博 (国立病院機構福岡病院)

加治 正行 (静岡市保健福祉子ども局保健衛生部)

野田 隆 (のだ小児科医院)

北山 敏和 (フリー講師)

中川 利彦 (パークアベニュー法律事務所)